
第 36 報 平成 24 年 5 月 17 日

東日本大震災 災害復旧資材供給情報

復旧・復興工事に関わる 建設資材等の需給動向

財団法人 経済調査会

【生コンクリート・岩手県、宮城県】

被災地では、メーカー側がコスト上昇分を製品価格へ反映すべく値上げの動きを見せていたが、昨年末からの生コン需要の急増を背景に売り腰を強めた結果、各地区で価格が上昇してきている。具体的には、建築標準物（21-18-20）が、宮古で m^3 当たり 1,000 円上申し 1 万 4,550 円、仙台地区で m^3 当たり 1,500 円上申し 1 万 1,000 円、石巻地区で m^3 当たり 300 円上申し 1 万 2,700 円、亶理地区で m^3 当たり 1,900 円上申し 1 万 3,000 円などとなった。

メーカー側の売り腰が強いことに加え、需要家側では価格よりも安定調達を優先する姿勢が強く、先行きも強含みで推移する見通し。

【骨材・宮城県】

被災地への応急復旧工事向けの道路用骨材を中心に出荷量を増やしていたが、今年に入り復興工事が本格化したことで、生コン向けの骨材需要が急増し、骨材需給はひっ迫している。ダンプ不足による運搬費上昇等から、販売側では値上げ交渉を行っており、一部で市況が上伸している。

石巻地区では、コンクリート用砂（荒目）で m^3 当たり 300 円上申し 3,000 円、コンクリート用砕石 20～5mm で m^3 当たり 300 円上申し 3,400 円となった。気仙沼地区では、コンクリート用砂で m^3 当たり 200 円上申し 4,300 円、コンクリート用砕石で m^3 当たり 200 円上申し 3,900 円となったほか、南三陸地区でも同様に上伸した。

【セメント・岩手県】

被災した太平洋セメント大船渡工場では、6月に特殊セメントの生産試験を行う予定で、7月には低熱セメントの生産を再開できる見込み。また、今年度下期までに、出荷再開の見込みとなった。

【鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材工場の稼動状況について】

当会ホームページの「災害復旧資材の供給情報提供窓口」では、被災地への資材供給に関わる鉄鋼製品、生コン、アスファルト合材各工場の稼動状況が一目で分かる地図を掲載しています。稼動状況に変更があれば、随時、情報を更新してまいりますので、併せてご覧ください。

※ 災害復旧資材の供給情報窓口 <http://www.zai-keicho.or.jp/fukkyu/index.php>

【問い合わせ先】 財団法人 経済調査会 土木第一部・土木第二部
TEL : 03-3543-1471 FAX : 03-3543-2182

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(地場資材)

資材名	県名	地区名	確認日	現在の供給体制、価格・需給動向、今後の見通し	先行き	
					需給動向	価格動向
生コンクリート (積算資料 P80)	岩手県	宮古	5月15日	<p>【価格変動】 建築標準物(21-18-20) でm3当たり1,000円上伸し、1万4,550円。</p> <p>【概況】 昨年末からの生コン需要の急増に伴い、各工場は運搬車両の増車・人員の増員で対応。各メーカーでは、コスト上昇分を販売価格に反映。需要家も価格面より納期・工程を重視し、値上げが浸透。建築標準物(21-18-20)でm3当たり1,000円上伸し、1万4,550円となった。</p> <p>今年度は災害復旧需要に対し、供給不足が懸念されており、各メーカーの販売姿勢は強い。先行きも強含み。</p>	ひっ迫	強含み
		大船渡	5月15日		均衡	強含み横ばい
		釜石	5月15日		ややひっ迫	強含み
	宮城県	仙台	5月15日	<p>【価格変動】 建築標準物(21-18-20) でm3当たり1,500円上伸し、1万1,000円。</p> <p>【概況】 地区協同組合では、原材料費・輸送コストの上昇分を転嫁すべく、平成24年1月以降の契約物件については建築標準物(21-18-20)で販売価格をm3当たり1万1,000円以上とすることを表明。組合・販売店の売り腰は強く、値上げが浸透。建築標準物(21-18-20)でm3当たり1,500円上伸し、1万1,000円となった。先行きも強含み。</p>	ややひっ迫	強含み
		石巻	5月15日	<p>【価格変動】 建築標準物(21-18-20) m3当たり300円上伸し、1万2,700円。</p> <p>【概況】 今年に入り本格的に復旧工事が始まり、需要は増大。被災したプラントの修繕費、生コン車の新規購入費、骨材の値上げ、燃料の高騰を背景に石巻協組ではm3当たり500円の値上げを実施。販売側の売り腰は強く、一部が受け入れられm3当たり300円上伸し建築標準物(21-18-20)で1万2,700円となった。先行きも、強含み。</p>	ややひっ迫	強含み
		気仙沼	5月15日		均衡	強含み横ばい
		亶理	5月15日	<p>【価格変動】 建築標準物(21-18-20) m3当たり1,900円上伸し、1万3,000円。</p> <p>【概況】 地区協同組合では、原材料費・輸送コストの上昇を転嫁すべく、年末頃からの契約物件については建築標準物(21-18-20)で販売価格をm3当たり1万3,000円以上とすることを表明。組合・販売店の売り腰は強く、値上げが浸透。建築標準物(21-18-20)でm3当たり1,900円上伸し、1万3,000円となった。4月以降の新規物件についても値上げ交渉を継続しており、先行きも強含み。</p>	ややひっ迫	強含み

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(地場資材)

資材名	県名	地区名	確認日	現在の供給体制、価格・需給動向、今後の見通し	先行き	
					需給動向	価格動向
生コンクリート (積算資料 P82)	宮城県	松島	5月15日		ややひっ迫	強含み
		南三陸	5月15日		均衡	強含み横ばい
	福島県	福島	5月15日		均衡	横ばい
		いわき	5月15日		ひっ迫	強含み
		南相馬	5月15日		ひっ迫	強含み
骨材 (積算資料 P171)	岩手県	宮古	5月15日		ひっ迫	強含み
		大船渡	5月15日		均衡	強含み横ばい
		釜石	5月15日		ややひっ迫	強含み
	宮城県	仙台	5月15日		ひっ迫	強含み横ばい
		石巻	5月15日	<p>【価格変動】 コンクリート用砂(荒目)でm3当たり300円上伸し、3,000円。 コンクリート用砕石20～5mmでm3当たり300円上伸し、3,400円。 クッション用材・埋め戻し用材でm3当たり200円上伸し、1,800円。 再生クラッシュラン40～0mmでm3当たり200円上伸し、2,000円。</p> <p>【概況】 震災関連の復旧工事向けに道路用砕石の需要増に加え、1月から生コン用骨材の需要も本格化し、需給はひっ迫している。ガレキ撤去にダンプを取られ、ダンプ不足の状況は変わらず、県外からの応援を頼んでいる砕石メーカーも多い。運搬費と燃料費の上昇を理由に、昨年度に引き続き各メーカーとも値上げ交渉を実施、一部が浸透した。先行きも強含み。</p>	ややひっ迫	強含み
		気仙沼	5月15日	<p>【価格変動】 コンクリート用砂(荒目)でm3当たり200円上伸し、4,300円。 コンクリート用砕石20～5mmでm3当たり200円上伸し、3,900円。</p> <p>【概況】 震災以降、被災地への応急復旧工事向けに主に道路用骨材を中心に出荷量が増加。今年に入り、生コン向けの出荷も増加した。震災以前は、出荷量が少ないことから気仙沼の砕石メーカーのみが供給していたが、震災後は、登米地区からも気仙沼地区へへの出荷が見られている。 運搬費と燃料費の上昇を理由に、昨年度に引き続き各メーカーとも値上げ交渉を実施。その一部が浸透した。先行き、強含み横ばい。</p>	均衡	強含み横ばい
		亘理	5月15日		ひっ迫	強含み横ばい
		松島	5月15日		ややひっ迫	強含み横ばい

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(地場資材)

資材名	県名	地区名	確認日	現在の供給体制、価格・需給動向、今後の見通し	先行き	
					需給動向	価格動向
骨 材 (積算資料 P172)	宮城県	南三陸	5月15日	<p>【価格変動】 コンクリート用砂(荒目)でm3当たり200円上伸し、4,300円。 コンクリート用碎石20～5mmでm3当たり200円上伸し、3,900円。</p> <p>【概況】 震災以降、被災地への応急復旧工事向けに主に道路用骨材を中心に出荷量が増加傾向。今年に入り、生コン向けの出荷も本格的に始まった。震災以前は南三陸地区にプラントがあるメーカーが供給していたが、震災により現在休止中のため、今は登米地区の碎石メーカーが納入している。運搬費、ダンプ単価、燃料費の上昇により各社値上げを実施、その一部が浸透した。先行きも強含み。</p>	均衡	強含み横ばい
	福島県	福島	5月15日		均衡	強含み横ばい
		いわき	5月15日		ひっ迫	強含み
		南相馬	5月15日		ひっ迫	強含み
アスファルト混合物 (積算資料 P298)	岩手県	宮古	5月15日		均衡	強含み横ばい
		釜石	5月15日		均衡	強含み横ばい
		大船渡	5月15日		均衡	強含み横ばい
		仙台	5月15日		均衡	強含み横ばい
	宮城県	石巻	5月15日		均衡	強含み横ばい
		気仙沼	5月15日		均衡	横ばい
		亘理	5月15日		均衡	強含み横ばい
		松島	5月15日		均衡	強含み横ばい
		南三陸	5月15日		均衡	横ばい
	福島県	福島	5月15日		均衡	強含み
		いわき	5月15日		ひっ迫	強含み
		南相馬	5月15日		ひっ迫	強含み

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
共通資材	鋼材	18 ～ 41	異形棒鋼	5月10日	マンションや物流倉庫の建設需要は引き続き堅調で、需要は当面、底堅いとみられている。関東地区の電炉メーカーは、電気料金の引き上げを余儀なくされている状況に加え、原料の鉄屑価格も依然高値圏で推移しており、製造コスト面でさらに苦しくなるとし、販価の引き上げに本腰を入れている。ただし、需要家側は強く抵抗しており、価格交渉は難航している。	均衡	強含み横ばい
	セメント	72	セメント(バラ)	5月10日	【低熱セメント】 太平洋セメントでは、大船渡工場の被災により、今年4月から上磯工場(北海道北斗市)などから供給を開始している。他メーカーとの応援供給体制も継続しており、供給懸念は解消される方向に進んでいる。また、大船渡工場では6月に特殊セメントの生産試験を行い、7月には低熱セメントの生産を再開する予定。出荷の再開は、今年度下期までに実施との計画になっている。	均衡	強含み横ばい
	型枠材	210 ～ 211	コンクリート 型枠用合板	5月9日	供給体制は平常通りとなっている。販売店側の在庫調整が進んだことに加え、新年度向けの需要が開始したことで、需給バランスは均衡を取り戻している。規格によっては品薄な製品も出てきており、目先、強含み横ばいで推移する見通し。	均衡	強含み横ばい
	木材	226 ～ 229	仮設・土木用 木材	5月9日	供給能力に問題はなく、材料の供給は安定している。	均衡	横ばい
		230 ～ 237	一般建築用 木材	5月9日	荷動きが好調な反面、大工職人の不足が依然として解消されておらず、工事量は制限されている。このため、材料の供給に支障は生じていない。	均衡	横ばい
	石油製品	250～252	石油製品	5月17日	イラン情勢の緊張緩和などを背景に原油相場が軟化、元売各社は卸価格を引き下げた。引き合いに精彩を欠く中、流通側の価格競争は強まり、市況は下落した。 JX仙台製油所、コスモ石油千葉製油所は3月末までに稼動を再開。これにより東日本大震災の影響で稼動を停止していた製油所はなくなり、供給面では通常の体制に戻った。	やや緩和	弱含み

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
共通資材	仮設関連資材	254(販売) 278(リース)	仮設足場	5月14日	東北地区では東日本大震災復興工事向けの引き合いが増えてきたものの、現時点では供給能力に問題はない。 被災地以外の供給は平常どおり。	ややひっ迫	横ばい
		260 264	ブルーシート 土のう	5月14日	メーカー、販売店は東日本大震災以降、ブルーシート、土のうの在庫を積み増しており、供給能力に問題はない。	均衡	横ばい
	各種 賃貸料金	265 ～ 273	建設機械器具 賃貸料金	5月14日	需要は復旧作業向けが中心になってきている。資材運搬等のためのダンプトラックの需要は依然多く、他県からの搬入も見られる。 建設機械・器具については、復旧作業向けの引き合いが徐々に増えてきており、稼働率は上昇傾向にある。	ややひっ迫	横ばい
		274 ～ 277	仮設鋼材 賃貸料金	5月14日	【鋼矢板・H形鋼・鋼製山留材・鋼製覆工板】 福島県、宮城県を中心に震災復興向け需要により荷動きは活発化しており需給はひっ迫している。供給側は今後、復興需要本格化に伴い供給不足になる可能性があるものと見ている。 一方、東北地方への供給も想定される関東地方は、圏央道など道路新設工事や民間工事などが好調に推移しており、首都圏内需要だけでも荷動きは好調に推移している。先行き、需給は復興需要本格化に伴い、よりタイト化する見通し。 【敷き鉄板】 東北地方は福島県、宮城県を中心とした震災復興向けの需要により荷動きは好調。需給はややひっ迫しているものの、潜在的な供給量が豊富なことから、先行き、需給は現状のまま推移する見通し。関東地方は官民とも需要は好調で荷動きも活発。東北での震災復興需要も見込めるものの、運搬経費などを考慮すると東北地方からの引き合いは限定的と見る動きが多く、先行き、需給はややひっ迫した状況で推移する見通し。	ひっ迫	強含み横ばい

東日本大震災 復旧・復興工事における主な資材の概況 月刊「積算資料」掲載品(一般資材)

分類①	分類②	積算資料 掲載ページ	品名	確認日	供給体制・需給動向	先行き	
						需給動向	価格動向
土木資材	舗装用材	295	ストレートアスファルト	5月9日	被災したJXエネルギー仙台製油所およびコスモ石油千葉製油所における生産体制は、ほぼ震災前の状況に戻っている。 被災地域における需要が盛り上がりつつあるが、今のところ、輸送手段も含め供給不足は生じておらず、需給は均衡。 一方、市況は、3月末まで続いた原油高に拠る調達コストの上昇を背景に、供給元売各社が仕切り価格の上方改定に動いており、当面、強基調で推移する見通し。	均衡	強含み
建築資材	内外装材	572	針葉樹 構造用合板	5月9日	被災した工場は、事業停止となった2工場を除いて稼働を再開しており、全品目について供給は平常通りとなっている。被災地区の引き合いは比較的多いものの、メーカーの減産が進まず、全国的に在庫量が増加したことにより需給が緩和し、市況も下落傾向となった。先行きの市況は弱含み横ばいで推移する見通し。	やや緩和	弱含み横ばい
電気設備資材	電線・ケーブル	612 ～ 613	600V 架橋ポリエチレン 絶縁ビニル シースケーブル(CV)	5月9日	小口案件が多いが復興需要向けの荷動きは堅調。供給体制については、現時点では問題なく、平常どおりの供給が可能となっている。 指標となるCV電線(600V)3心38mm2の価格(東京)は、m当たり1,159円と前月比約3.3%の下落。需要家の値引き要求は恒常化しているが、販売筋では、復興需要の本格化を見据え、銅価下落以上の値下げには応じない姿勢を示している。	均衡	横ばい
機械設備資材	配管材	782	硬質ポリ塩化 ビニル管	5月10日	下水関連で荷動きがあるものの、震災復興関連の本格的な需要はまだ先であり、いまのところ供給体制に問題はみられない。	均衡	横ばい

東日本大震災 復旧・復興工事における主な工種の概況 市場単価(季刊「土木施工単価」「建築施工単価」掲載工種)

◆季刊「土木施工単価」

分類	工種	掲載ページ	確認日	市場動向・概況	先行き	
					需給動向	価格動向
土木工事 市場単価	鉄筋工 (手間のみ)	3 ~ 9	5月10日	被災三県(岩手、宮城、福島)の土木系の鉄筋工事は、年度末から沿岸部の工事発注が大量に出てきており、工事量が増加する兆しを見せている。しかし、まだ実際の施工段階には至っていないため、年度末の最盛期より落ち着いている状況。現在は、内陸部の災害復旧工事や一般構造物(河川、道路、橋梁、擁壁など)の新設・補修工事が中心となっている。 こうした中、鉄筋工の労務不足ははるかに深刻で、賃金の上昇とともに、他地区からの調達に伴う経費等も高まっている状況。専門工事業者側の値上げ要請も根強く、強含み推移が続いている。 当面、本格化する復興工事の需要と慢性的な鉄筋工の不足を背景に、強含みでの推移が続こう。	ひっ迫	強含み
港湾工事 市場単価	鉄筋工 (手間のみ)	414 ~ 417	5月11日	昨年度末にかけて国および自治体から多くの災害復旧工事が発注される中、防波堤築造にかかるケーソン製作工事の発注も大幅に増加している。 一方で、工事量の増加に見合う技能労働者の確保は困難な状況であり、一部では、労働者不足による工事遅延の懸念も出るなど、需給ひっ迫状況に改善の兆しは見えない。工事会社は周辺地域からの調達も含めて労働者確保に注力しているものの、賃金水準の上昇とともに工事費相場もじり高傾向となっており、当面は強含みでの市況展開が続く見込み。	ひっ迫	強含み
	型枠工 (材工共)	422 ~ 425	5月11日	被災三県(岩手、宮城、福島)の港湾施設では、多くの震災復旧工事が発注されているが、港湾構造物製作の際に必要な型枠工などの技能労働者不足は依然として深刻な状況。さらに、型枠材についても、震災時に使用不能となったものが多いことや、工事現場数の増加により、自社保有型枠では需要を賄えないことなどから、リース品の使用を余儀なくされるケースが増加しており、調達コストの上昇を招いている。 つれて、型枠工事相場は強基調推移となっており、今後も強含みでの市況展開が続く見込み。	ひっ迫	強含み

東日本大震災 復旧・復興工事における主な工種の概況 市場単価(季刊「土木施工単価」「建築施工単価」掲載工種)

◆季刊「建築施工単価」

分類	工種	掲載ページ	確認日	市場動向・概況	先行き	
					需給動向	価格動向
建築工事 市場単価	鉄筋工事 (手間のみ)	10 ~ 13	5月9日	被災地区(沿岸部)における復興需要は本格化に至っていないが、比較的被害の少なかった地区(内陸部など)では、マンションや事務所ビルなどの新築工事や補修工事、耐震改修工事などが増加している。総合工事会社では依然として技能労働者の手配に苦慮しており、専門工事会社では慢性的な職人不足に対して周辺地域や他県からの協力体制が見られている。価格交渉姿勢も強気のため、市況は強含み。	ひっ迫	強含み
	型枠工事 (材工共)	18 ~ 21	5月9日	沿岸地域以外では、住居やオフィスビルの改修工事、および新年度に入ったことにより新築工事案件が続々と動き出している。型枠工職人の不足は依然として改善されず、工事需要も好調であるため、需給はひっ迫している状況が続いている。 専門工事会社では職人確保のため、他地域からの応援を受けて対応している場合もあり、コスト高から値上げ要求を強めている。一方、総合工事業者側では、工期との兼ね合いもあり、これを受け入れざるを得ない状況で、市況は引き続き強含みで推移している。	ひっ迫	強含み